

農業振興の考え方は

農業委員会・認定農業者・JAと連携を密にし、水田収益力強化ビジョンに基づき振興を図る

問

高収益作物の作付面積は徐々に増えているが、今後の対応は。

答

作付拡大に向けて、今後は担い手農家や農協などの関係機関と連携し、地域の現状や現場のニーズに即したより効果的な産地交付金メニューを設定する。

問

ビジョンの中には、省力化技術・トラクターなどの作業機械の共同利用とあるが、具体的に。

答

今後は農業従事者の減少が見込まれることから、個々の農家が機械を所有して農業を続けるだけでは限界がある。集落営農組織などが機械導入補助事業等



池内 邦仁
議員



を活用して導入した機械を共同利用することで、効率的な営農体制の構築が可能と考える。

問

今後の継続取組は。

答

農家所得向上のため、付加価値を高めた作物の生産だけでなく、販売力強化も図り、稼げる農業への転換を進める。若い世代や意欲ある担い手が農業に希望を持てる環境づくりに取り組んでいく。

現在、町内には2団体が集落営農方式の補助を利用し営農されている。各地区で集落営農方式の検討も意味があるのでは。

子ども議会（一般質問）開催します

8月7日（金）9：30から

庁舎5階の議場にて



※町民の皆さん、ぜひお越しください。ただし、傍聴席（40人）は保護者優先のため、定員を超える場合は、先着順とさせていただきます